世界へ東京ブランド発信

米トランプ大統領の不安定な政権運営、中国経済の先行き不安など、世界経済の不透明感は払拭できていない。ただ、ここにきての株価の急騰や企業業績の好調な推移など、明るい材料は多い。産業界は、IoT（モノのインターネット）やAI（人工知能）、ロボットといった新たな技術が台頭し、モノづくりは変革の時代に直面している。2020年の東京五輪・パラリンピックを控え、産学官も動く。中でも、東京都は、企業の競争力の源泉となる知的財産政策の強化に乗り出した。優れた製品・技術を持つ中堅・中小企業をはじめ、東京都の取り組みを紹介し、世界へ東京ブランドを発信する。

東京都の知的財産政策

真に強い中小育成に力

企業の競争力の源泉は、技術力やノウハウなど知的財産（知財）にある。保有する知財は守る以外に武器として権利化し、他社と共同開発するために適切な契約を結ぶなどして事業に生かすことが実は、会社を伸ばしていくには重要だ。そこで、東京都と東京都中小企業振興公社は、都内中小企業からの知財相談や問い合わせに対し、相談窓口や助成制度などさまざまな支援メニューを通じ、真に強い中小企業の育成に力を注いでいる。

海外知財専門相談窓口を開設

知財を事業に生かしたいと考えた際、初歩的な困り事であっても、解決するには東京都知的財産総合センター（東京都台東区、織田好和所長、03・3832・3652・365）に相談するのが早道だ。知財センターには毎年、年間6000件近くの相談が寄せられている。平日の9時から17時まで相談無料で応じている（予約制）。連携特許法律事務所は中国、韓国、米国、タイと幅広く、ベトナムやインドネシア、シンガポール、フィリピン、ミャンマーの案件も対応する体制を敷く。11月16日現在、572件の相談が寄せられた。

内容や国、事例をみると、「特許侵害や模倣品対応、模倣されないよう申請するにはどうすればよいのか」といった内容で、米国や中国に関する相談が多く寄せられている。東南アジア諸国についても、マレーシアへ出願した商標が標準文字ではなく別の書体で登録されたことについて、マレーシア特許庁の運用などを確認するため、知財センターの提携先特許事務所と連携し、対応済みだ。

攻めの知財活用として、知財センターは大企業などが保有する技術シーズと中小企業が保有する開発ニーズのマッチングを行う「知的財産活用製品化支援事業」を実施している。富士通とライセンス契約した学幸社（東京都北区）は、PTSD（心的外傷後ストレス障害）治療などに使われるEMDR（眼球運動による脱感作と再処理法）治療支援システムを活用した製品を開発した。千葉大学と共同開発契約を結んだアンサム（東京都渋谷区）は、千葉大が保有する話者認識技術を活用して製品開発し、各種展示会に出展するなど好事例が出始めている。

知財の権利別や技術契約・海外知財などのカテゴリー別に入門編から上級編までのセミナーや各種講座なども行っている。一度、知財センターの門をたたいてみるのも何かの発見につながるだろう。

江戸東京きらりプロジェクト

東京都の小池百合子知事肝いりのプロジェクトで、江戸東京の技や老舗の産品に磨きをかけて東京ブランドとして世界へ発信する「江戸東京きらりプロジェクト」が加速してきた。モデル事業として江戸東京組紐の龍工房（東京都中央区）、江戸小紋の廣瀬染工場（東京都新宿区）ら、衣・食・住などから5事業を選定。今後、東京ブランドの確立、モノづくり、伝統ある産業の魅力向上、技の継承を実施していく。

11月4日には「伝統的工芸品月間国民会議全国大会」とあわせて同プロジェクトのキックオフイベントを開き、東京産の食材を使った創作スイーツの限定試食会を行った。虎屋は滝野川ゴボウを使った花びら餅、マカロンで有名なピエール・エルメ氏は小笠原産パッションフルーツを使った新しいチーズケーキ、同プロジェクトのモデル事業者で、老舗割烹料理店日本橋ゆかりの野永喜三夫氏は、素材を厳選したプリン「江戸っ米（こ）ぷりん」を披露した。

小池知事は、「東京には宝がザクザクあります。練馬大根マカロンなんていいんじゃない？」と、次なる新商品のアイデアを披露するなど、期待を寄せていた。

11月4日に開いた「江戸東京きらりプロジェクト」発信イベントのトークセッションでは、ピエール・エルメ氏（左）が当日限定で、東京産の食材を使用した創作スイーツを提案（中央は小池百合子都知事、右は虎屋の黒川光晴専務）

日本スポーツ振興センターは新国立競技場の大庇・軒庇の実物大検証模型を公開した

東京五輪・パラリンピック開幕まで、あと959日

大会成功へ2課題

道路インフラ整備 ボランティア確保

2020東京オリンピック・パラリンピック開幕まで、あと959日。メーンスタジアムとなる新国立競技場（東京都新宿区）の建設なども着々と進んでいる。順調にみえる半面、築地市場（東京都中央区）から豊洲市場（東京都江東区）への移転・開場日は未定で、豊洲市場の追加対策工事に関する競争入札も不調が続くなど、大会までに間に合うのかどうか、一部で不安の声があがっている。

大会成功のための課題は大きく二つある。一つは道路インフラ整備と輸送能力の向上だ。大会期間中に選手たちを運ぶ環状2号線の新橋―豊洲間は、当初計画では地下トンネルを通す予定だったが、20年3月末までに地上部分で片側一車線を暫定開通することに変更した。築地市場跡地の駐車場利用計画も、当初予定の半分の台数分しか確保できず、周辺で他の空き地を確保する必要が出てきている。

もう一つは、大会を支えるボランティア人員の確保だ。2020大会に必要とされるボランティア数は、大会ボランティア、都内の都市ボランティア含め9万人以上とされる。それぞれ大会組織委員会、東京都が募集・研修・運営を行うが、大会ボランティアの募集は18年夏にスタートの予定だ。

都が新宿や上野など4エリアで実施中の「おもてなし東京（観光ボランティア）」は現在、登録者数が約2500人、20年までに3000人の登録者数を目指している。ハードとソフトの両面で世界各地からの受け入れ準備を進めていく。

東京特集 INDEX

10面 独自技術を追求するエクセレントカンパニー
11面 わが社の技術と製品

モノづくり！
IQ
INNAMI QUICK
短納期だって
神対応の
スプリンター
企業
Automation System Creator INNAMI 株式会社印南製作所 〒120.0047 東京都足立区宮城1-12-22 TEL:03.3912.2976 印南製作所 で検索